

あなたの声を市政に届けます!

人の輪だより

村上ひろしと市民ネットワーク「後援会」

〒862-8601 熊本市中央区手取本町1-1

TEL (096) 328-2650

FAX (096) 324-7777

15の春の体験は宝物

今や懐かしい15の春

私は、小学6年から3年間、肢体不自由児施設に入園していました。退園し、故郷に帰ったのは中学2年の3学期でした。施設にはさまざまな障害がある4歳から18歳までの200人ほどの子どもたちが県下全域から集まっており、同年代の子どもたちと寝食をともにできたことは貴重な体験でした。

治療優先だった3年間で遅れた学力。退園後、高校受験のため必死に勉強に取り組んだ1年間。遅れていた学力も取り戻し、何とか高校生活への希望が見えてきました。

想像さえしなかった校長の言葉

迎えた「15の春」の高校受験。試験当日、9科目の学科試験には自信とやり切った満足感で一杯でした。ところが、合格発表の日、掲示板に私の名前はありませんでした。

1週間後に高校からの呼び出し。「貴方がここ(高校)に来るのは迷惑なのです」という想像もしていなかった校長からの言葉には、同席していた両親も驚いたと思います。

さらに「他の生徒が階段から“故意”に突き落として

も責任を求めないなら入学を認める」との校長の追い打ち。私の人間としての尊厳が打ち砕かれた一瞬でした。しかし、私は「それでいいです」と答えるしかありませんでした。

何十年もの間、 私の心の中に秘め続けた「15の春」

「15の春」から33年後、紆余曲折を経て、私は熊本市議会議員となりました。市民相談や議員活動を行うとき、校長から屈辱の言葉を投げつけられた体験がいつの間にか、私にとっては大きな武器となっているのに気づきました。

私のところへ相談に来られる人たちの多くが意を決して来られます。弱い立場に置かれ、心細さで一杯なのです。そんな人たちの「SOS」を受け止め、辛い状況を理解できる想像力が身に付いていました。

そう思えるまで30数年という長い歳月を要しましたが、校長から投げつけられた言葉は、今では本当にありがたいと思えます。「15の春」は私にとってかけがえのない貴重な体験であり、宝物です。

GO!GO!ラリー2026 ウェルカム パドック

熊本地震から10年。歳月が経つほどに人々の記憶から忘れられるのが宿命ですが、俳優の唐沢寿明・山口智子夫妻が熊本地震からの復興を後押しするために、発起人として呼びかけたクラシックカーによる「GO!GO!ラリー2026」は、新たな試みとして地元で実行委員会を結成。

5月16日、全国各地から集まった122台のクラシックカーがサクラマチ広場をスタート、初日は天草、人吉を巡り17日にゴールのサクラマチ広場へ。今回初めての試みとして銀座通りを締め切りパドック(歩行者天国)に。ラリー参加者と市民の交流の場となり、これまで以上に大きな盛り上がりを見せました。

今回は二日間をかけ、天草、人吉を巡り、さらに多くの県民に元気を与えてもらいました。



肌で感じたエンジン音と クラシックカーの佇まいに 興奮と一体感!!



私は菊陽バイパスの沿道から「GO!GO!ラリー」を見ることができました。歴史あるクラシックカーが、熊本の美しい街並みや復興へ歩む地域を颯爽と駆け抜ける姿は圧巻の一言でした。

沿道では地元の皆さんと一緒に、クラシックカーのエンジン音や独特の佇まいを間近で感じ、まるでタイムスリップしたかのような興奮と一体感に包まれました。応援でパワーを届けるつもりが、逆に沢山の元気を貰えた素晴らしいイベントだったと思います。クラシックカーのドライバーの皆さん、ありがとうございました!!

MK 26歳 熊本市在住

中央区老人連合会 会長
伊藤 洋子さん



村上さんとの関り

思いがけない原稿依頼を簡単に受け、後悔しています。

市議会議員の村上さんとの関りは、希望荘で学生さんたちと談合されているのをチラッとお見かけしたことが始まりです。私は中央区老人クラブ連合会会長と同時に、希望荘で毎週土曜日に発達障がいの方たちと勉強会をしています。

その勉強会の仲間に村上市議を応援している知人がおり、そんな関係からお近づき?になったような気がします。

嬉しかったバス停ベンチの設置

嬉しかったことがあります。市役所の移動円滑推進課からの連絡で、バス停待合ベンチ設置の説明会に老人会代表として参加しましたが、その後のことがわからずにいたところ本会議の一般質問でバス停ベンチに触れて頂き、質問の答弁が「市議会だより」に掲載され、心配していた状況がわかり安堵しました。

老人クラブは地域の重要な社会資源

村上さんには中央区老人クラブ連合会の総会にも出席していただき、会員にもなっていただき、感謝です。現在さまざまな理由でシニア(老人)会も減少の一途をたどっています。私たち老人クラブを「地域の重要な社会資源」としてお認め頂き、高齢者がいることで若い方も、力をもらっていると思われる時代であってほしいと思いますし、魅力あるシニアクラブにしていきたいと思いますので、ご尽力のほどをよろしくお願い致します。

NPO法人 熊本県地域こども食堂支援センター
TSUDOU・NET 理事長
野村 順子さん



子ども食堂は地域のインフラ機能!!

近年、子ども食堂は「食事を提供する場所」という役割を越え、地域のインフラとしての機能を担うようになっていきます。私どもの「地域こども食堂」のネットワークである「TSUDOU・NET」(集うネット)では、熊本県内200を超える子ども食堂や地域団体と連携し、食材支援や情報共有、居場所づくりの支援を行っています。

現場では、食事の提供だけでなく、不登校や生活困窮、ヤングケアラー、ひとり親家庭、高齢者の孤立、障害福祉の視点などさまざまな地域課題の早期発見につながるケースが増えています。また、災害時には地域住民が集まりやすい拠点として、安否確認や物資配布、炊き出しなどの防災機能も期待されています。

子ども食堂は機動力を発揮する地域資源

実際に、平時から地域住民や企業、行政とのつながりを築いている「子ども食堂」は、有事の際に最もその機動力を発揮できる地域資源の一つだと感じます。しかし、その役割の重要性に対し、運営は多くのボランティアや寄付に支えられているのが現状です。

今後は、「子ども食堂」を福祉・教育・防災を繋ぐ地域拠点として位置づけ、行政との連携強化や活動場所の確保、備蓄品整備への支援などについて、ぜひ考えてほしいものです。

村上さんに期待!!

村上博さんには、今後も誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、議会からの声を行政に反映させてほしい、さらなるお力添えを期待しています。

社民党 副党首
橋村 りかさん



私たちの毎日を守り育てていかれる

社民党副党首、橋村りかです。村上さんとの出会いは、11年以上前。当時2歳の長男を連れて、村上さんの選挙事務所に応援に行きました。「こんな小さな子がいって、邪魔では…」私の不安は、村上さんの笑顔でするりと消え、その後、毎回、選挙のお手伝いをしています。

私たちが日々抱えるさまざまな悩みは、自分の問題

で「自己責任」だと思わされます。ですが、村上さんは、そんな悩みを「あなたの問題」で終わらせません。ご自身も障害当事者として受けてきた様々な経験を政策提言の糧とし、「自分ごと」として市民と向き合い、私たちと共に「市民の声」を市政に届け続けてこられました。

村上さんは、市政に種をまき、育て、花を咲かせ実を实らせる。国政は、その実がより豊かに育つように土台を作り、土を作る。それぞれの役割を果たしていくことが、そこに生きる人々のいのち、暮らし、人権、尊厳を守ることに繋がります。

これからも、村上さんは、私たちの毎日を守り育てていかれます。

NPO法人 糸 理事長
宮田 稔大さん



訪問介護の人材不足対策は、 現場の声に耳を傾けて!!

私たち訪問介護事業所は、深刻なヘルパー不足に直面しています。有効求人倍率14倍超と、人材確保が困難な状況が続き、新規依頼の受け入れ停止や事業縮小を余儀なくされる事業所も少なくありません。

そのような中、6月議会に熊本市の介護人材確保・定着促進事業として450万円の補正予算が計上されました。事業の中核で、介護施設と地域住民をつなぐボランティアマッチングサービス「スケッター」の活用は、施設介護では一定の効果が期待されますが、訪問介護は利用者の自宅で身体介護や生活援助を行うサービスであり、制度上、ヘルパーの有資格者による支援が必要です。そのため、ボランティアによる代替は難しく、訪問介護の人材不足解消にはつながりにくいのが実情です。

介護体制の「充実と構築」を

これについて、村上議員をはじめ超党派の議員の方々が、訪問介護の人手不足の実態について取り上げてくださったことを大変心強く感じています。現場が求めているのは、担い手であるヘルパーの確保や育成、処遇改善など、訪問介護の実態に即した支援策です。

今後も現場の声を政策に反映させ、利用する方たちが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる介護体制の「充実と構築」を大いに期待しています。

ケアマネージャー
辻 構平さん



介護離職者、年間10万人超え

私は高齢福祉・介護保険の分野に従事するケアマネージャーです。近年、ビジネスケアラーと呼ばれる、仕事をしながら身内の介護をする人は全国で300万人を超え、介護を理由とした離職者は年間10万人を超えるなど、大きな社会問題となっています。

ヤングケアラーに行き着く

私も産業ケアマネの資格を取得し、ケアラー支援について学ぶ中で、ヤングケアラーの問題に行き着きました。日本では「介護は家族で担うもの」という意識が根強く、介護に関する理解を社会全体で深めていく必要があると感じています。

密接につながる高齢・児童・障がい

そんな中、児童・障がい福祉にも精力的に取り組まれている村上さんにご縁をいただき、月1回の学習会に参加しています。高齢、児童、障がいの各分野は密接につながっており、この学習会は多くの気づきと学びを得られる大変貴重な場となっています。今後もこうした学びの輪が広がることを期待しています。

村上ひろしと市民ネットワーク(後援会)
会長 岡 成也さん



市民の声を議会や行政に届ける

村上ひろしをいつも応援していただき感謝いたします。熊本市議会議員として長年にわたり、私たちの声を議会や行政へ市民の代弁者として活動している姿を身近で垣間見る私にとって、村上ひろしの働きと行動力が、今の時代に益々必要とされていると思います。

市民に寄り添い、親身になって

多くの市民の皆様との交わりや対話を通して様々な悩みや課題に向き合い、市民に寄り添い課題解決へ親身になって、関係機関と連携して取り組む姿勢こそが必要な時代だと確信しています。

弱い立場の人に寄り添う生き様

「すべての人に優しい熊本市」をめざして、多様化する社会の在り方から見過ごされている人々に目を注ぎ、弱い立場の人に寄り添っていく姿勢こそが村上ひろしの「生き様」です。

すべての人に優しい街を

熊本市がすべての人に優しい街となることを願い「人の輪」を広げていきたいと思っています。

障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク 30周年記念大会

(2026年7月6日～8日 開催)

障害のある現職議員や元議員らで結成される「障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク」。東京で行われる30周年記念大会に参加してきました。

政策や議員活動を行う上での悩みについて発表し、意見を言い合うなど私にとって貴重な体験となりました。3日目には障害のある議員への合理的配慮を求める要望書を総務省へ提出しました。

政治参加ネット 東京大会の様子



青木学新潟市議会議員
(政治参加ネット代表)と



木村英子 参議院議員
(政治参加ネット東京大会～参議院会館)



30周年を振り返って
(参議院会館 1 階会議室)



総務省への要望書提出
(参議院会館)